今月はICOの9月レポートに加え、トピックスとして9月28日～10月2日の間イタリアのミラノで開催された第115回ＩＣＯ　理事会及びグローバルコーヒーフォーラム（ＧＣＦ）、『国際コーヒーの日』行事について報告させて頂きます。

Coffee Market Report
September 2015
INTERNATIONAL COFFEE ORGANIZATION

2014/15コーヒー年度は最近20か月間での最安値で終わった

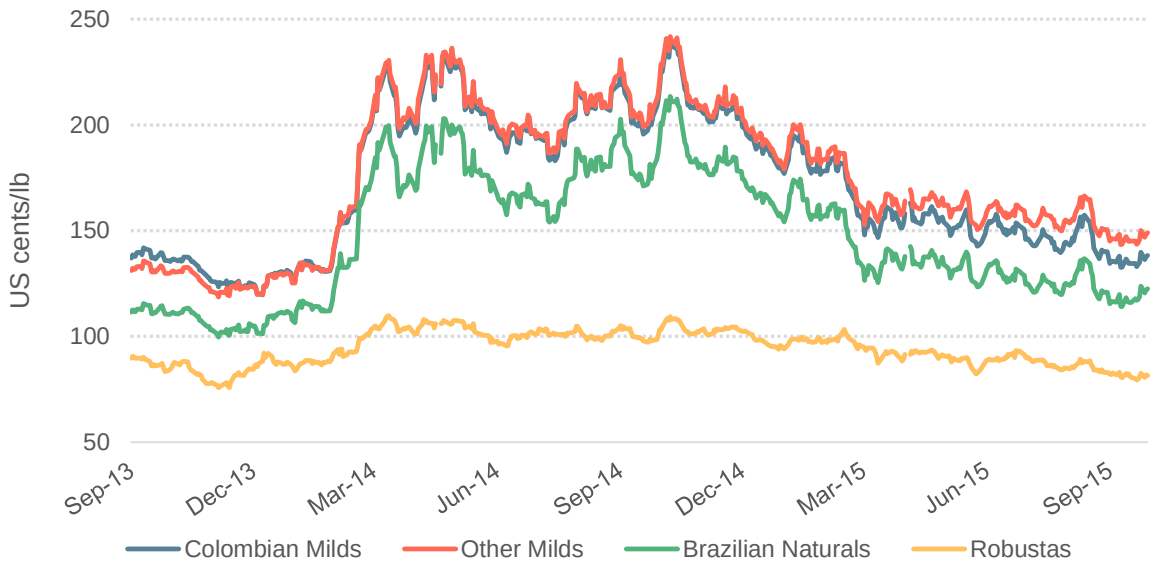
9月のコーヒー市場は、コモディティー価格が全般的に安く推移する中で、ブラジルレアル及びコロンビアペソの為替レートが対ドルで弱含んだことが主要因となり、8月中に少し価格変動があった後、更に値を下げた。ブラジル農務省商品供給公社（ＣＯＮＡＢ）は2015/16年度の第3回コーヒー生産量見通しを42.1百万袋と発表したが、前回見通しに比べ2百万袋少なかったにも拘わらず市場では材料視されなかった。これから2015/16コーヒー年度に入るが、特に中米の乾燥気候やコーヒー生産地域におけるエルニーニョ等の異常気象の影響に注意する必要がある。

グラフ 1: ICO 日次複合指標価格

© 2015 International Coffee Organization (www.ico.org)

9月のコーヒー価格は引き続き下落傾向となり、ＩＣＯ複合指標価格の月間平均値は、3月以来最大の下げ幅となる6.7％の下げを記録した。今月の平均価格113.14米セント/LBは2014年1月以来の最安値だが、日次価格推移を見ると月末にかけて若干値を戻している。

グラフ 2: ICO 日次グループ指標価格



© 2015 International Coffee Organization (www.ico.org)

8月に比べ4グループ全ての指標価格が下落したが、特にアラビカ3グループの指標価格の下げが大きかった。結果として、ニューヨークとロンドン先物市場の差であるアラビカとロブスタのアービトラージは1年前の半値近い水準を下回っており、最近20か月間で最少となる50.13米セント/LBまで縮小した。

グラフ3: ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ

© 2015 International Coffee Organization (www.ico.org)

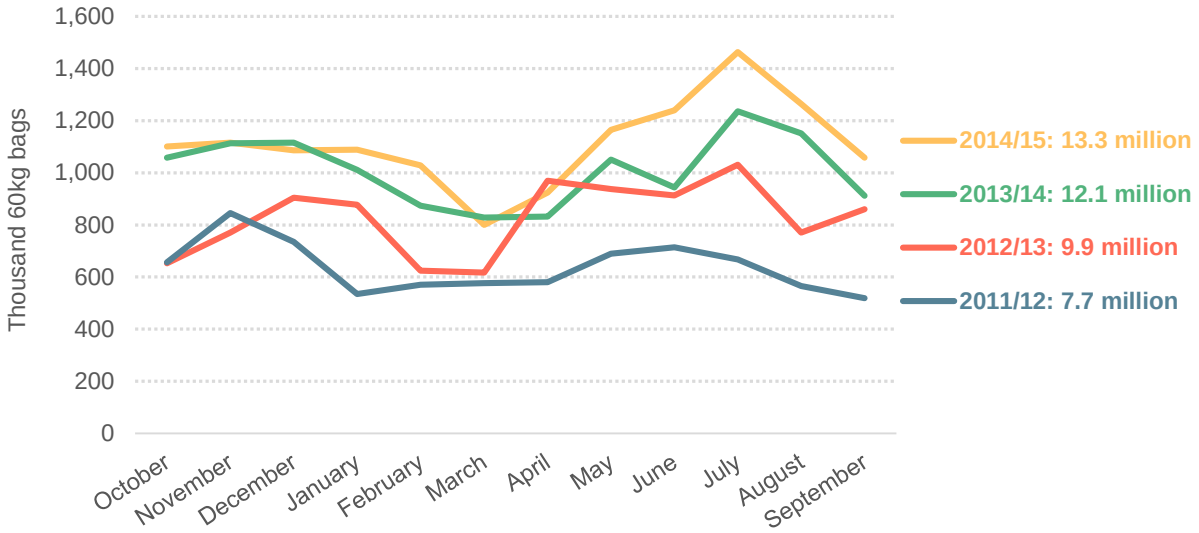
グラフ 4: ICO 複合指標価格の30日移動平均価格変動率

© 2015 International Coffee Organization (www.ico.org)

2015年8月の全輸出量は2014年8月と比べると2.6％減の9.1百万袋となった。2014/15年度最初の11か月（10月～8月）の累計輸出量は前年同期の104.8百万袋から102.0百万袋に減少したが、内訳はアラビカコーヒーが2.3％、ロブスタが3.5％の減少となっている。しかしコロンビアマイルド輸出量は供給可能量が増えたことで10.3％増加した。実際、コロンビ

ア生産者連合（ＦＮＣ）予想によると2014/15年度の生産量は、1992/93年度以来最大となる13.3百万袋となっている。下のグラフ5はコロンビアの月間生産量を示したものだが月間生産量は4月以降前年度対比増加していることが解る。またコロンビアの年間生産量は3年連続して増産になる見通しである。

グラフ 5: コロンビア月間生産量 (収穫年度 2011/12 - 2014/15)



© 2015 International Coffee Organization (www.ico.org)

ブラジルの政府機関であるＣＯＮＡＢは2015/16年度のコーヒー生産量最新見通しを、前回の44.3百万袋から、42.1百万袋に減らした。これは主にアラビカの生産量が32.9百万袋から31.3百万袋に減ったことによるものだが、ロブスタの生産量も11.3百万袋から10.9百万袋に減産予想となっている。これはブラジルにとり2009/10年度以来最も少ない生産量になるということを意味するが、3年連続しての減産ということでもある。

グラフ 6: フラジル生産量 (収穫年度 2009/10 - 2015/16)

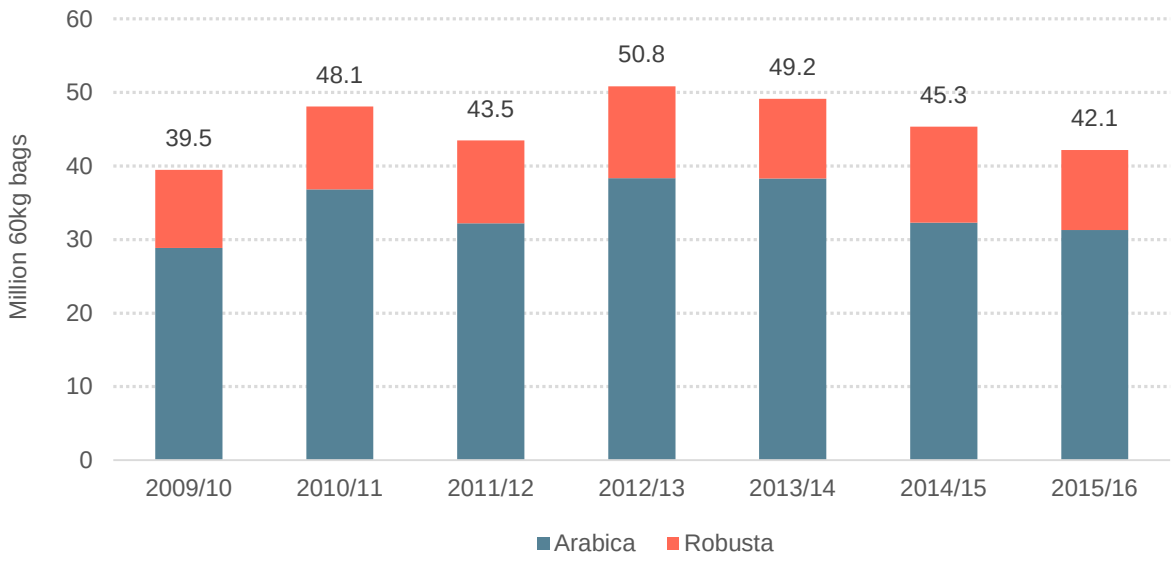


表 1: ICO 指標価格及び先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Sep-14	161.79	206.78	210.53	182.15	100.52	192.09	91.24
Oct-14	172.88	222.59	225.29	197.05	104.70	210.12	95.51
Nov-14	162.17	206.41	209.38	181.43	103.06	192.33	93.60
Dec-14	150.66	190.16	193.60	166.58	98.43	177.82	89.86
Jan-15	148.24	185.26	190.00	163.50	98.01	173.19	89.33
Feb-15	141.10	174.11	178.89	151.90	98.36	159.55	89.76
Mar-15	127.04	154.29	160.74	133.55	92.16	139.70	82.94
Apr-15	129.02	157.06	164.00	136.70	92.06	141.79	82.71
May-15	123.49	150.19	158.48	130.38	87.56	135.22	78.03
Jun-15	124.97	152.02	159.76	130.51	90.25	135.86	80.25
Jul-15	119.77	144.52	154.45	123.64	87.12	128.59	77.16
Aug-15	121.21	146.96	156.92	127.24	85.78	132.42	76.25
Sep-15	113.14	135.55	146.15	117.83	81.50	121.66	71.53
%change between Sep-15 and Aug-15							
	-6.7%	**-7.8%**	**-6.9%**	**-7.4%**	**-5.0%**	**-8.1%**	**-6.2%**
Volatility (%)							
Aug-15	8.4	9.7	8.7	10.4	5.6	11.5	5.5
Sep-15	7.3	7.7	6.6	9.4	6.4	8.3	7.0
Variation between Sep-15 and Aug-15							
	-1.0	**-2.1**	**-2.0**	**-1.1**	**0.8**	**-3.2**	**1.5**

* 第2限月及び第3限月の平均値

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds Other Milds	Colombian Milds Brazilian Naturals	Colombian Milds Robustas	Other Milds Brazilian Naturals	Other Milds Robustas	Brazilian Naturals Robustas	New York* London*
Sep-14	-3.75	24.63	106.26	28.38	110.01	81.63	100.85
Oct-14	-2.70	25.54	117.89	28.24	120.59	92.35	114.61
Nov-14	-2.97	24.98	103.35	27.95	106.32	78.37	98.73
Dec-14	-3.44	23.58	91.73	27.02	95.17	68.15	87.96
Jan-15	-4.74	21.76	87.25	26.50	91.99	65.49	83.86
Feb-15	-4.78	22.21	75.75	26.99	80.53	53.54	69.79
Mar-15	-6.45	20.74	62.13	27.19	68.58	41.39	56.76
Apr-15	-6.94	20.36	65.00	27.30	71.94	44.64	59.08
May-15	-8.29	19.81	62.63	28.10	70.92	42.82	57.19
Jun-15	-7.74	21.51	61.77	29.25	69.51	40.26	55.61
Jul-15	-9.93	20.88	57.40	30.81	67.33	36.52	51.43
Aug-15	-9.96	19.72	61.18	29.68	71.14	41.46	56.17
Sep-15	-10.60	17.72	54.05	28.32	64.65	36.33	50.13
%change between Sep-15 and Aug-15							
	6.4%	**-10.1%**	**-11.7%**	**-4.6%**	**-9.1%**	**-12.4%**	**-10.8%**

* 第2及び第3限月の平均価格

表 3: 輸出国の総生産量

Crop year commencing	2011	2012	2013	2014	% change 2013-14
TOTAL	**136 572**	**147 593**	**146 801**	**141 732**	**-3.5%**
Arabicas	82 008	88 365	87 040	84 167	-3.3%
Colombian Milds	*8 720*	*11 523*	*13 488*	*14 020*	*3.9%*
Other Milds	*31 965*	*28 927*	*26 816*	*26 549*	*-1.0%*
Brazilian Naturals	*41 323*	*47 914*	*46 736*	*43 599*	*-6.7%*
Robustas	54 564	59 228	59 761	57 565	-3.7%
Africa	16 058	16 632	16 239	16 877	3.9%
Asia & Oceania	41 918	45 355	46 744	44 685	-4.4%
Mexico & Central America	20 194	18 481	16 585	18 013	8.6%
South America	58 402	67 125	67 233	62 156	-7.6%

単位：千袋

Full production data are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 4: 輸出国の総輸出量

	August 2014	August 2015	% change	October - August		
				2013/14	2014/15	% change
TOTAL	**9 346**	**9 103**	**-2.6%**	**104 839**	**101 951**	**-2.8%**
Arabicas	5 411	5 472	1.1%	64 376	62 909	-2.3%
Colombian Milds	*943*	*1 132*	*20.1%*	*11 141*	*12 286*	*10.3%*
Other Milds	*1 638*	*1 678*	*2.5%*	*21 201*	*20 424*	*-3.7%*
Brazilian Naturals	*2 830*	*2 661*	*-6.0%*	*32 034*	*30 199*	*-5.7%*
Robustas	3 935	3 631	-7.7%	40 463	39 041	-3.5%

単位：千袋

Full trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨーク及びロンドン先物市場の認証在庫

	Sep-14	Oct-14	Nov-14	Dec-14	Jan-15	Feb-15	Mar-15	Apr-15	May-15	Jun-15	Jul-15	Aug-15	Sep-15
New York	2.68	2.67	2.63	2.60	2.55	2.56	2.60	2.56	2.41	2.43	2.38	2.36	2.28
London	1.88	2.02	2.08	2.12	2.35	2.55	2.84	2.93	3.02	3.12	3.35	3.43	3.43

単位：百万袋

表 6: 世界のコーヒー消費量

Calendar years	2011	2012	2013	2014	CAGR (2011-2014)
World total	**139 364**	**143 099**	**147 495**	**149 162**	**2.3%**
Exporting countries	42 788	44 196	44 951	46 144	2.5%
Traditional markets	77 561	78 417	80 880	81 091	1.5%
Emerging markets	19 015	20 485	21 664	21 927	4.9%

CAGR: Compound Annual Growth Rate

単位：千袋

Full consumption statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

―トピックス―

9 月 28 日～10 月 2 日の間、ミラノ万博会場の隣のミラノ国際展示場で第 115 回ＩＣＯ理事会及び初めてのグローバルコーヒーフォーラム（Global Coffee Forum）が開催され、10 月 1 日には万博会場で初めての『国際コーヒーの日』イベントが催されましたのでご報告します。尚、全日本コーヒー協会からはこの行事に横山会長、森本副会長、藤井副会長、佐伯参与が出席しましたので併せてご報告いたします。

＝スケジュール＝

9 月 28 日（月）第 115 回 ICO 理事会、財務委員会、プロジェクト委員会

9 月 29 日（火）理事会、統計委員会

9 月 30 日（水）グローバルコーヒーフォーラム（ＧＣＦ）

10 月 1 日（木）グローバルコーヒーフォーラム、『国際コーヒーの日』式典

10 月 2 日（金）民間部門諮問委員会、消費・市場開拓委員会、理事会

（1）理事会

第 115 回理事会冒頭シルバ事務局長はロシアが 4 月にＩＣＯに新規加入したこと及び日本が 7 月にＩＣＯに再加盟したことを報告しました。日本政府からは農林水産省から食料産業局企画課長の深水秀介氏、外務省から経済安全保障課長の松林健一郎氏、龍道友和氏の 3 人に出席頂きましたが、松林課長が 1 年前のシルバ事務局長の全協招待による訪日にも触れ、ICO と共に世界のコーヒー市場の健全な発展に貢献するつもりだとの声明を発表しました（日本代表団声明文後述の通り）。ブラジル、インドネシア、ホンジュラス代表が日本の ICO 再加盟を歓迎する旨の正式発言を行いましたが、場外でもシルバ事務局長含む多くの人から最大級の歓迎を受けました。尚 ICO の肝となる財務委員会には日本、ロシア両国とも委員として加わることが認められ、消費国側委員は米国、EU、スイス、ロシア、日本の 5 ヵ国と決まりました。

EU・米国・スイスの提案で ICO の戦略レビュー（Strategic Review）を行うことが決められました。10 月にワーキンググループ（仮想）を立ち上げ年末までに委任事項（Terms of reference）を決めたうえで 2016 年 9 月までに最終レポートを完成することが決まりました。また ICO 人事規定が見直されることも決まりました。

2 日間（9 月 30 日、10 月 1 日）のグローバルコーヒーフォーラムを挟んだ理事会最終日に分担金の一部が支払不足に陥ったブラジルの扱いについて討議されましたが（ICO の分担金は 6 ヶ月以内に支払われることになっていますが、ブラジルレアル切り下げの影響で一部金額が支払不足になったにも関わらず、同国の国会承認手続きが遅れ支払期限が過ぎてしまったもの）、ＩＣＯ協定規則の通り支払いが完了するまで加盟国としての一部権利を停止することが決められました。ベトナムも支払遅延しており、両国は 2015/16 年度の各

委員会委員から外れることになりました。各委員会の 2015/16 年度の構成委員が決められましたが、全日本コーヒー協会が今後 2 年民間部門諮問委員会（PSCB）委員とて残留することも決まりました。

（２）財務運営委員会

日本がＩＣＯに正式加盟したことで初めて出席することが出来るようになった委員会です。現在入っている ICO オフィスの賃貸リースが 2017 年 3 月に切れることから、前回理事会で割高なリース料を考慮しロンドン郊外に移転することが決められましたが、事務局長から郊外に事務所を賃貸している国際ココア機関（ICCO）が 2017 年にアイボリーコーストに移転することが決まったとのことで、同事務所への移転を検討したいとの話があり承認されました。2014/15 年度予算（2914 千ポンド）進捗状況の説明があり、2015/16 年度予算（2915 千ポンド）が承認されました。また会費の支払い遅延が頻発していることから、期限内支払促進策について討議されました。マウリシオ・ガリンド執行役辞職に伴う後任選びについてシルバ事務局長から 10 月中に候補者リストを作成し来年 3 月末までには採用予定であるとの報告がありました。

（３）プロジェクト委員会

今回、新規プロジェクトの話は出ませんでしたが、事務局から現在進行中の 3 プロジェクト（エチオピア・ルアンダ PJ、ブルンディ PJ,コンゴ PJ）について PJ の進捗状況について報告がありました。

（４）統計委員会

事務局から加盟国の統計データ報告状況について報告されましたが、特に輸出国の報告状況が悪く、ICO の重要な機能の一つである信頼できるデータ整備が十分にできない理由の一つになっているとの話がありました。統計データの充実を図るため専門家や一般企業メンバーで構成されるワーキンググループ（Round Table）でデータの整合性を検討することが決まりました。前回委員会でペンディングだったインスタントコーヒー(IC)の生豆換算率（2.6 倍）について、事務局から IC の生産効率が良くなっているので 2.5 倍でもよいとの意見が出ているが、取りあえずは現状のままに据え置き、来年 3 月の ICO 理事会で再度議題にすることが決まりました。

（５）民間部門諮問委員会（PSCB）

コーヒー品質研究所（CQI）Kimberly 女史のコーヒーセクターにおける女性の権利保護と品質向上を訴えるスピーチ、ポルトガルのコーヒーサビ病研究センターの Victor Varza 氏の同センターのこれまでの研究成果報告及びポルトガル政府の援助が受けられなくなったので研究を継続する為の資金援助をお願いしたいとの切実な呼びかけがありました。コーヒー科学情報研究所（ISIC）の Roel Vaessen 氏から Acrylamide についてＥＵ政府が何らかの規制を加えようとしているが今のところどのような規制になるか時期も含め解っていないとの報告があり、更に OTA については国連食糧農業機関（FAO）のサイトからいつの間にか情報が削除されているのでＩＣＯのホームページで取り上げるようにとの要請が

なされ、事務局長がフォローすることを約束しました。2015/16 年度の PSCB 議長としてインドネシア GAEKI の Leman 氏、副議長として Rusteacoffee の Ramaz 氏が選出されました。

（６）消費振興・市場開拓委員会

最終日に行われた同委員会で Illy 氏はミラノ宣言の内容（別添）を紹介し、この宣言はイタリア大統領が 10 月 15 日に国連のバンキムン氏に直接手渡すことになっているとの補足説明があり承認されました。

（７）グローバルコーヒーフォーラム（GCF）

イタリア農林大臣 Maurizio Martina 氏、ICO 事務局長 R.Silva 氏、全イタリアコーヒー協会会長 Mario Cerutti 氏などの歓迎･開会挨拶のあと､『Coffee and Pleasure』『Coffee and Health』『Coffee and Sustainability』の 3 つのセッションに分け 1 日半かけてスピーチやパネルディスカッションが行われました。横山会長は初日に『Japanese way of enjoying coffee』のテーマで日本人が国民飲料としてコーヒーを受け入れるようになった経緯について、過去及び現在の日本人のコーヒーの楽しみ方を紹介しましたが、特にコンビニコーヒーに興味を示す人が多かったようです。ICO 関連団体関係者のスピーチが多かったですが、コロンビア大学地球研究所長兼国連ミレニアムＰＪディレクターの米国人 Jeffrey Sachs 氏の地球温暖化阻止を呼び掛けたスピーチ及び『The Blue Economy』の著者で、起業家でもあるオランダ人 Gunter Pauli 氏のコーヒー廃棄物を利用した新ビジネスの話は特に聴衆の注目を集めていました。

10 月 1 日の午後は会場をミラノ万博会場に移し、万博の一般参加者が見守る中、20 か国ほどの生産国や米国、イタリアなどの国旗及び民族衣装を身に着けた人達が鳴り物入りで行進、会場入場後、Oxfam イタリア代表の Barbieri 氏が貧しいコーヒー農家の為に募金活動を開始することを宣言し、CQI 代表の Kimberly 代表がコーヒー産業における女性の権利保護を訴え、これからも毎年 10 月 1 日コーヒーの日を『A Happy Coffee Day』と言って祝おうと呼びかけ、参加者全員が大声で呼応しました。イタリア司会者の進行で Jeffery Sachs 氏、ブラジル著名写真家 Sebastiao Salgado 氏及び Andrea Illy 氏のコーヒーを如何に気候変動から守るかのパネルディスカッションが行われた後、Illy 氏が、『ミラノコーヒー宣言』（全文後述）を発表し、Silva 氏の『国際コーヒーの日』宣言で締めくくられました。

初めての GCF 及び国際コーヒーの日(ICD)行事でしたが、参加者から高額会費（300 ユーロ/一人）を徴収することになった為、ＧＣＦへの一般参加者が少なかったことは残念でしたが、『国際コーヒーの日』が来年以降も 10 月 1 日に行われることが Silva 事務局長により公に宣言されたことは日本のコーヒー業界にとっては大きな意味を持つものだと思いました。

以上

9 月 28 日 ICO 理事会における日本代表団の声明（Statement）

ICO 理事会議長、ICO 事務局長
各国代表団及び紳士淑女の皆様

日本政府を代表しましてまずは皆さんに、本日、日本がＩＣＯに再加盟して初めてこの様に声明を発表する機会を与えて頂きましたことに心から感謝申し上げます。また何か国かの代表から暖かい歓迎の言葉を頂き有難うございました。イタリア政府に対しても、ＩＣＯの重要な会議の開催に当たり特別なご支援・ご協力を賜り改めて御礼申し上げます。更にロシア連邦政府に対してはＩＣＯ加盟のお喜び申し上げます。

ICO 事務局長殿、

あなたの献身的な日本へのアプローチが日本のＩＣＯ復帰を促したと言っても過言ではありません。あなたは去年の今頃全日本コーヒー協会の招待で日本に来られました。その際、あなたは岸田文雄外務大臣やその他重要な政府要人に会われました。そして日本のＩＣＯ復帰を熱心に説かれました。あれから 1 年、本日このような形で記念すべき国際コーヒーの日（10 月 1 日）のタイミングで日本がＩＣＯに復帰したとお話しすることが出来ることを大変喜ばしく思っています。

あなたもご存じのように、日本は世界第 4 番目のコーヒー輸入国であり消費国であります。日本は 100 年前にコーヒー輸入を開始しました。1980 年代に、コーヒー消費は日本の伝統飲料である緑茶の消費を上回りました。日本の民間部門が大変な努力をした結果、2014 年に日本のコーヒー輸入量は生豆換算で 450000MT を超えました。このことは全ての日本人が毎日一杯以上のコーヒーを飲んでいることを意味しています。また日本の街角にはどこにでも喫茶店を見つけることができます。これらの事実は我々の日常生活に於いて既にコーヒーが馴染みの深い飲料になっているということを物語っています。

一方、2010 年以降コーヒー価格は、需要が増えているにも関わらず生産量が減少、変動する為、大きく動きました。我々は ICO の重要な使命はコーヒーの生産性を改善することであり、価格や供給を安定させ、技術や生産者の生活水準を向上させることだと了解しています。これは日本の利益と一致します。日本政府は世界コーヒー市場の発展と安定の為に民間部門と協力することが重要だと考えています。我々は ICO や関係国の政府・民間部門との協力を通し、また日本の民間部門を代表する全日本コーヒー協会との協力を深めることで、更に様々な活動を強化したいと思っています。

我々は、ICO がコーヒーの生産や供給、コーヒー生産者への支援など国際社会の様々な協力分野で引き続き重要な役割を果たし、コーヒーの品質が向上し世界の安定供給が確保されることを心から望んでいます。最後に、これらの目的を達成する為に ICO と一緒に協力して行くという日本の決意をご披露させて頂き結びたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

以上

10 月 1 日・国際コーヒーの日に行われたアンドレア・イリー社長の『コーヒー宣言』

2015 ミラノ万博

コーヒー遺産、『ミラノからの手紙（Carta di Milano）』への添付レター

40 か国のコーヒー生産国と殆ど全てのコーヒー消費国の参加を得て、９百万人が訪問したコーヒーパビリオン（Coffee Cluster）、初めてとなる国際コーヒーフォーラム及び国際コーヒーの日行事が催された 2015 年ミラノ万博は、単にコーヒーを祝う特別の機会としてだけではなく、コーヒーが健康促進に役立つことやコーヒー生産国の持続可能な発展にも寄与するという認識を高める良い機会となった。

コーヒー遺産（Coffee Legacy）レター作成のアイデアは『ミラノからの手紙』作成が決められた初期段階に生まれ発展したものである。

この宣言は、ベロオリゾンテ宣言をベースに作成されたものであり、次のことを追認するものである。

『コーヒーはコーヒー生産に従事する地方社会の経済及び社会発展に寄与する極めて重要な農作物である。

同時にコーヒーは消費者を幸せな気持ちにし、楽しみと健康を与えるものでもある。

この過程（Process）はコーヒー消費者が幸せに感じるということと生産国が利益を得るという経済価値との相互関係の好循環（Virtuous circle）を意味するものである。

この好循環は、コーヒーの品質・差別化・持続可能性に於いて生産価値を増大することによって養い、更に加速させなければいけない。

農家が必要な変化を遂げ、起こりうる脅威を取り除く為の知識を共有することや融資は生産国にとっては最も必要なことである。

継続的な取り組み（Continued work）や政府と民間部門の協力の拡大は、変化に対応する為、またコーヒー生産者にとって重要な問題の一つである気候変動を含むコーヒー産業の持続可能性を実現する為の条件を作り出す為の重要な鍵（Key）となるだろう。』

以上